

国語 創価大学 一般入試 B・C 学習アドバイス (傾向と対策)

■一般入試 B (2月3日) 1科目目

注：2022 年度入試から全学統一入試：共通テスト利用可 (2/3 試験) において、1 科目目の数学・国語の一部記述を廃止します。詳細はホームページをご確認ください。

出題傾向

解答時間は 70 分。五者択一式のマークシート形式が基本であるが、記述問題も出題されていた。本日程は大問が 3 つあるが、全て現代文の読解問題である。受験生が初見で問題を解く際は、評論と随筆・エッセイの区別はしづらいかもしれないが、大問□、□は評論から、大問□は随筆・エッセイ・小説などから出題される傾向にある。また、出題文のテーマは哲学に限らず、現代社会において重要なテーマから幅広く出題されている。そして設問は漢字問題、意味問題、傍線部や本文の内容・理由説明問題、空欄補充問題、脱文挿入問題、指示語に関する問題、記述問題、抜き出し問題など、多彩な設問が並んでいる。また、空欄補充問題も多彩で、接続詞や副詞などを入れる問題から語句や表現を入れる問題まで、幅広く出題されている。そもそも、こうした空欄補充問題で高得点を取るためには語彙力が必要になってくるが、1 つの大問ごとに 2～3 問の漢字問題が出題されていることも踏まえると、漢字も含めた語彙力が重要になってくると言える。

大問□は、藤田省三「今日の経験」からの出題で、約 2100 字であった。意味問題や指示語に関する問題などは出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。なお、四十字程度の記述問題も出題されていたので、記述対策も怠らないようにしておきたい。

大問□は、木村敏『人と人との間』からの出題で、約 2400 字であった。脱文挿入問題や抜き出し問題などは出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。なお、指定されたキーワードを用いて六十字以内でまとめる記述問題も出題されていた。

大問□は、住野よる『君の臍臓をたべたい』からの出題で、約 2700 字であった。脱文挿入問題や指示語に関する問題、抜き出し問題などは出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。なお、三十字以内で説明する記述問題も出題されていた。

学習アドバイス

漢字問題が計 8 問出題されていたので、まずは漢字対策をしておきたい。具体的には、1 日 10 分ほど漢字を覚える時間を作りたい。たとえ 10 分でも毎日続ければ、多様な漢字を覚えることができる。また、漢字を覚えることが読解問題の対策にもつながる。我々は普段話し言葉で話すが、入試に出てくる文章は書き言葉で書かれるため、受験生は同じ日本語でも読みづらさを感じやすい傾向にある。しかし、漢字を覚えながら意味を覚えていくと語彙力がつくので、なじみのない言葉で書かれた文章でも頭に入ってくるやすくなる。加えて、語彙力がつく空欄補充に入れるべき選択肢の判断がしやすくなるという効果も期待できる。

なぜなら、言葉の意味を知っていると、文章の流れのなかでどの言葉が適切か判断しやすくなるからだ。よって、まずは漢字を覚えながら語彙力をつけていくことが効果的であると言える。

次に、読解問題の対策であるが、まずは設問や傍線部の内容を理解することを意識してほしい。たとえば、「心の窓が開く」という箇所に傍線が引かれたとする。「窓」とは、私たちにとっては家にあるものであるが、「窓」の前に「楽しいことや苦しいことが展開すること」という表現があれば、文章内における「窓」とは、「楽しいことや苦しいこと」といった「感情」を踏まえた表現であることがわかる。このように、私たちにとってなじみのある「窓」という表現が、本文では別の意味として用いられていることもある。したがって、設問や傍線部、選択肢で使われている表現が、本文通りに使われているか確認する必要がある。もちろん、たとえ本文の表現通りに選択肢が作られていても、設問や傍線部に合致していないと選ぶことはできない。このように、問題を解く際には細心の注意を払う習慣をつけておきたい。

最後に、記述問題の重要性について述べておきたい。大問 3 つともに記述問題が出題されているが、制限時間は 70 分である。つまり、素早くマーク問題を解いたり記述問題を書いたりしなければならない。よって、普段から時間配分を意識しながら解くようにしたい。時間配分は慣れてくるものなので、普段から意識しておきたい。なお、記述問題もマーク問題と同様で、設問が本文のどの辺りを問うのか冷静に見極める必要がある。自分にとって書きやすい箇所を書くとは限らないので、設問に応じて柔軟に書いていくようにしたい。

■一般入試 B (2 月 3 日) 2 科目目

出題傾向

解答時間は 60 分。全て五者択一式のマークシート形式である。本日程は大問が 3 つあるが、全て現代文の読解問題である。基本的には大問□、□が評論から、大問□が随筆・エッセイ・小説から出題されることが多い。そして、設問は漢字問題、傍線部や本文の内容・理由説明問題、本文内容合致問題、空欄補充問題、文整序問題、脱文挿入問題、意味問題など、多彩な設問が並んでいた。なお、漢字問題が大問□で 3 問、大問□で 2 問、大問□で 2 問の合計 7 問出題されているので、漢字を覚えながら、読解に必要な語彙力も強化しておきたい。

大問□は、デイヴィッド・イーグルマン『意識は傍観者である 脳の知られざる営み』(大田直子訳)からの出題で、約 3000 字であった。本文内容合致問題と文整序問題、意味問題は出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。

大問□は、西研『哲学は対話する』からの出題で、約 1800 字であった。文整序問題と意味問題は出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。

大問□は三木卓「おもどりさん」からの出題で、約 2000 字であった。評論と随筆・エッセイ・小説の解き方に大きな違いはないので、落ち着いて解きたい。本文内容合致問題と脱

文挿入問題は出題されていなかったが、それ以外は上記の設問通りであった。

学習アドバイス

まずは、漢字対策を万全に行いたい。1日10分でも毎日続けて、知らない漢字を覚えるようにしたい。また、文章に読みづらさを感じる受験生がいるかもしれないが、それは言葉を受け取るための語彙力が不足している可能性がある。知らない漢字を覚えたり意味を調べたりすることで、文章を頭に入れやすくするための基礎力を身につけておきたい。なお、上記の「出題傾向」で述べたように、漢字問題以外に空欄補充問題も出題されている。文章の流れのなかで適切な語句を選ぶためにも、語彙力は欠かせない。よって漢字問題だけでなく、読解問題や空欄補充問題に対応するためにも、語彙力は欠かせないと言える。

次に、読解問題の対策について述べる。評論や随筆・エッセイ・小説に関係なく、設問や傍線部を理解するという意識を持つようにしたい。文章の理解も必要だが、問題である以上、それだけでは得点することができない。設問や傍線部を理解する力も必要であるので、片方に偏ることのないよう両方の力を鍛えておきたい。文章を書いた作者と、問題を作った作問者とは年齢や性別、価値観が異なる可能性がある。作問者の意図で選択肢が作られているということを忘れないようにしたい。作問者の意図を理解するためにも、各選択肢をしっかりと比較して選別することが必要である。選択肢の細かいところを見落としていた、ということがないように集中力や注意力を鍛えておきたい。

そして、時間配分も忘れないようにしたい。最初は時間配分に戸惑った受験生であっても、練習すると慣れてくるものなので、何度も解いて反復練習をしておきたい。解けるはずの問題を試験本番で取りこぼすことがないように、時間配分も含めた対策をしておきたい。

■一般入試C（2月7日）

出題傾向

解答時間は60分。大問 $\square 1$ ・ $\square 2$ ・ $\square 3$ ともに評論・随筆・エッセイ・小説から出題されるこ

とが多いが、評論と随筆・エッセイの区別を明確にしづらい文章もあるため、大問 $\square 1$ ・ $\square 2$ ・

$\square 3$ ともに解き方を変えない方が混乱しない場合もある。どんな文章から出題されても求められる学力は同じであるので、基本的な解き方をしっかりと身につけておきたい。なお、全て五者択一式のマークシート形式である。

大問 $\square 1$ は宮野真生子『出逢いのあわい——九鬼周造における存在論理学と邂逅の倫理』からの出題で、約2000字であった。漢字問題、傍線部や本文の内容を問う問題、語句や表現などを入れる空欄補充問題や脱文挿入問題、本文内容合致問題など、多彩な設問が並んでいた。

大問^二は松村圭一郎『これからの大学』からの出題で、約 2600 字であった。漢字問題や傍線部・本文の内容を問う問題、空欄補充問題など、多彩な設問が並んでいた。

大問^三は最果タヒ『きみの言い訳は 最高の芸術』からの出題で、約 1600 字であった。漢字問題、傍線部や本文の内容・理由を問う問題、空欄補充問題や表題を問う問題など、多彩な設問が並んでいた。

学習アドバイス

大問^一

漢字問題が 3 問出題されていた。大問^二では漢字問題が 2 問、大問^三では 3 問出題されていることを踏まえると、漢字は得点源にしておきたい。したがって、1 日 10 分で構わないので、継続的に漢字を覚える時間を作り、知らない意味を調べておくようにしたい。そうすると、空欄補充や意味を問う問題でも得点できるようになるので、一石二鳥である。次に読解問題のアドバイスであるが、こちらは設問や傍線部が述べている箇所に着目するようにしたい。もちろん本文も重要だが、本文だけ読めても得点することはできない。設問や傍線部が本文全体のなかでどのようなことを述べているのか、という視点も不可欠である。問題集は標準レベルのもので構わないので、上記の視点で問題演習を増やすことが合格への第一歩であると言えよう。

大問^二

漢字問題が 2 問出題されていた。大問^一の漢字問題と同様、確実に得点できるようにしておきたい。読解問題は上述したように、本文の理解だけでなく設問や傍線部を理解していくということも重要である。

大問^三

現代文の解き方は、評論や随筆・エッセイで変わることはない。ただ、随筆・エッセイは評論とは異なり本文の表現をそのまま使うことは難しいので、選択肢では本文の表現を少し変えて書かれることが多い。したがって、表現が変わっても同じことを言っていると判断する力が必要である。そうした力をつけるには、やはり語彙力が必須である。普段から知らない言葉が出てきたら、調べて覚えるようにしたい。同時に、評論だけでなく随筆・エッセイも入っている問題集を使って練習しておく、万全の対策ができた状態で試験に臨めるであろう。

■一般入試 C (2 月 8 日) 【看護学部】

出題傾向

解答時間は 60 分。全て五者択一式のマークシート形式である。本日程は大問が 3 つあるが、全て現代文の読解問題である。基本的には大問^一、^二が評論から、大問^三が随筆・エッ

セイ・小説から出題されることが多いが、解き方は変わらないので、どのような文章から出題されても落ち着いて解きたい。そして、設問は漢字問題、傍線部や本文の内容・理由説明問題、本文内容合致問題、空欄補充問題、文整序問題、脱文挿入問題など、多彩な設問が並んでいる。なお、空欄補充問題で得点するには語彙力が必要だが、その語彙力は漢字を覚えることで強化される。漢字問題が大問□で3問、大問□で2問、大問□で3問の合計8問出題されているので、漢字を覚えながら語彙力も強化しておきたい。

大問□は、佐藤邦政『善い学びとはなにか 〈問いほぐし〉と〈知の正義〉の教育哲学』からの出題で、約3000字であった。上記の設問通りであった。

大問□は、尹雄大『モヤモヤの正体——迷惑とワガママの呪いを解く』からの出題で、約2000字であった。脱文挿入問題は出題されていないが、それ以外はほぼ上記の設問通りであった。

大問□は磯崎憲一郎『金太郎飴 磯崎憲一郎 エッセイ・対談・評論・インタビュー 2007 - 2019』からの出題で、約1500字であった。脱文挿入問題は出題されていないが、それ以外は上記の設問通りであった。

学習アドバイス

まずは、漢字対策を万全に行いたい。1日10分でも毎日続けて、知らない漢字を覚えるようにしたい。また、文章に読みづらさを感じる受験生がいるかもしれないが、それは言葉を受け取るための語彙力が不足している可能性がある。知らない漢字を覚えたり意味を調べたりすることで、文章を頭に入れやすくするための基礎力を身につけておきたい。なお、上記の「出題傾向」で述べたように、漢字問題以外に空欄補充問題も出題されている。文章の流れのなかで適切な語句や表現、四字熟語などを選ぶためにも、語彙力は欠かせない。よって漢字問題だけでなく、読解問題や空欄補充問題に対応するためにも、語彙力は欠かせないと言える。

次に、読解問題の対策について述べる。評論や随筆・エッセイ・小説に関係なく、設問や傍線部を理解するという意識を持つようにしたい。受験生は、「対照」という表現を「対比」という意味で理解する場合が多いが、「対照」には「照らし合わせる」という意味もあるため、「対照」という意味しかないと思いついてしまうと解けない問題もある。設問や傍線部で用いられている表現を筆者がどのような意味で使っているのか、自分が知っている意味だけで理解しようとせず、文章から正確に読み取ることが必要である。自分の主観や思い込みで誤解することがないように、文章を正確に読み取る練習を積んでおきたい。

そして、時間配分も忘れないようにしたい。最初は時間配分に戸惑った受験生であっても、練習すると慣れてくるものなので、何度も解いて反復練習をしておきたい。解けるはずの問題を試験本番で取りこぼすことがないように、時間配分も含めた対策をしておきたい。